

クラモクグループ 環境経営レポート2023

クラモクホールディングス株式会社（第1期）
倉敷木材株式会社（第82期）
クラモクホームズ株式会社（第1期）

対象期間：2022年7月26日～2023年7月25日



エコハウス・アワード最優秀賞



推奨エコハウスゾーン部門

優秀賞

発行：2023年9月8日
改定：2024年1月30日

クラモクグループ 環境経営レポート2023
対象期間:2022年7月26日～2023年7月25日
発行:2023年9月8日 改定:2024年1月30日

①組織の概要	3
②活動範囲	3
③環境経営理念・環境経営方針・トップメッセージ	4
④環境経営目標(当年度及び次年度以降) 並びに当年度の実績(事業所及び建設現場)	5
⑤環境経営目標の実績評価 並びに今後の方針(事業所及び建設現場)	8
⑥環境経営計画及びその取組内容(事業所及び建設現場)	10
⑦環境経営計画の実施体制(事業所及び建設現場)	11
⑧環境経営計画の取組結果及び その評価(事業所及び建設現場)並びに次年度の方針	13
⑨次年度の環境経営計画(事業所及び建設現場)	15
⑩環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	17
⑪代表者による全体評価と見直しの結果	18
⑫当社の事業及び企業行動とSDGs	19
⑬連絡先	22
⑭参考資料	22

① 組織の概要 / ② 活動範囲

《 組織の概要 》

クラモクグループは、明治40年の創業以来、一貫して「木」を商材として扱ってきました。

国産材の良材供給より出発し、木造住宅の建築はもとより、住宅設備やアルミサッシ・木工家具等、様々な住まいの関連商品を扱い、「暮らしの相談センター」として活動してきました。それはあたかも「くらしの樹」という苗木が、時を経て根を張り、幹を太らせ、更に枝葉を広げたように思われます。2023年にはクラモクホールディングス株式会社を設立し、持株会社制に移行しました。これからもクラモクグループは、地域の人々に「心豊かな温かい暮らし」を提案し続ける事を願い、堂々とした大樹に育つ事を目指して行きます。

事業の概要: 木材・建材の販売、住宅建築、木の家具の製作・販売

クラモクグループ(創業: 1907年)

クラモクホールディングス株式会社

所在地: 〒710-0803 岡山県倉敷市中島1000-1

代表者名: 代表取締役会長 大久保憲作 / 代表取締役社長 大久保陽平

電話番号: 086-465-3322 / FAX番号: 086-465-3346

法人設立: 2023年1月24日

倉敷木材株式会社

所在地: 〒710-8581 岡山県倉敷市中島1000-1

代表者名: 代表取締役会長 大久保憲作 / 代表取締役社長 川上裕一郎

電話番号: 086-465-3322 / FAX番号: 086-465-3346

法人設立: 1947年9月5日

クラモクホームズ株式会社

所在地: 〒710-0803 岡山県倉敷市中島999-1

代表者名: 代表取締役会長 大久保憲作 / 代表取締役社長 三宅浩

電話番号: 086-465-7700 / FAX番号: 086-465-7709

法人設立: 2023年4月19日

【建設業許可】岡山県知事許可(特-5)第3865号

【一級建築士事務所】岡山県知事登録 第14785号

【宅地建物取引業】岡山県知事(1)第6117号

直近の事業規模: 売上 18億878万円(内部取引相殺済)

③ 環境経営理念・環境経営方針・トップメッセージ

《 環境経営理念 》

クラモクグループは、創業以来一世紀にわたって積み重ねてきた知識と経験を元に、再生可能な資源としての木と共にある暮らしを提案することを通して、持続可能な社会作りに貢献します。

《 環境経営方針 》

1. 私達は、以下の環境方針に則り事業活動を行います。
 - 1) 環境負荷の少ない住宅資材販売及び住宅建築を推進します
 - 2) 事業活動に伴う使用エネルギー及び廃棄物の削減に努めます
 - 3) 環境保全のために森林や木材が果たしている役割について、地域にお知らせします
2. 私達は、環境関連の法律、規制、協定等を遵守するとともに、業務手順を整備して適正な処理を行います。
3. 私達は、環境経営レポートの公表及び地域の苦情・要望への対応によって、環境コミュニケーションの推進を図ります。
4. 私達は、全従業員を挙げて環境マネジメントシステムを推進し、継続的な環境改善に努めます。

策定：2008年7月25日

改訂：2023年7月10日

《 HD会長メッセージ 》

古来より森を守り、木を育て、木の家で木と共に暮らしてきた日本人。

まさに日本の文化は木を大切にする文化だとも言えます。

森の中で突然出会った大木に思わず手を合わせる。ふるさとの鎮守の杜でほっと心が休まるひと時を持つ。

杉の障子に朝日が差し、部屋の中だけでなく心までもが温かい気持ちになったこと、ありますよね。

ほんとうに、木の力とは自然の力。そして私たちの生活とはその自然の力をいただくことだと思います。

クラモクグループは明治40年の創業以来、このように私たちの生活とは切っても切れない関係にある「木」を扱ってきました。適切に管理された森林から得られる木材を利用すれば、時間を経て森林は再生し、次の世代も再び森から恵みを利用できるのです。再生可能な資源である木を扱うことを職としていること自体、私たちには大変有難いことであると感じています。

環境活動を通し、自社の業務に伴う環境負荷を低減させることはもちろん、クラモクグループがこれまで一世紀にわたって積み重ねてきた知識と経験を元に、木に関わる様々な事柄を皆様にお伝えし、ご提案することで、それぞれの木が持つ温もりや個性を感じてもらいたいと思います。そして一人でも多くの方に適切に木を利用していただくことで結果として地球の森を荒廃から守り、地球温暖化防止の役に立ちたいと考えています。



クラモクホールディングス株式会社
代表取締役会長 大久保 憲作

《 HD社長メッセージ 》

戦後の日本を形作ってきた社会のあり方が急速に変化する中、企業もその存在意義や価値観が厳しく問われています。こうした不安定な時代にあるからこそ、当社は木という自然素材を扱う企業として、地域のお客様との安定した信頼関係を築いていきたいと考えています。

同時に、事業活動に伴って生じる様々な環境負荷を、出来るだけ低減させることが求められるのは言うまでもありません。市民社会の一員として、そうした企業としての社会的責任をより具体的な行動として実践するため、当社は2009年7月31日に初めての環境認証を取得しました。

以来、事業活動と環境活動の両立を目指しつつ、近年は国連のSDGsともリンクさせながら全社的な取り組みを継続しています。

また、コロナ禍に加えて、今後本格的な人口減少社会を迎えるにあたり、社員の「生き方の変革」に率先して取り組んでいくことが当社の新たな社会的責任の一つであると認識しています。

そうした企業行動によってもたらされる社員満足度及び生産性の向上が、事業活動における環境負荷低減に資するだけでなく、結果として皆様へご提供するサービスの品質や持続可能性にも良い影響をもたらすと信じて日々活動しています。



クラモクホールディングス株式会社
代表取締役社長 大久保 陽平

④ 環境経営目標(当年度及び次年度以降)並びに当年度の実績(事業所及び建設現場)

《 環境経営目標(第82期～84期)並びに82期の実績値(事業所及び建設現場) 》

※CO2排出量における使用排出係数は第83期以降5年間0.545kg-CO2/kWh(中国電力2022年度調整後の係数)とする。

項目	主部門	計算式及び単位	中期的な原単位目標値 (主にスライド方式)			80期(2020年7/26～)		81期(2021年7/26～)		82期(2022年7/26～)	
			82期	83期	84期	計算根拠	実績値	計算根拠	実績値	計算根拠	実績値
1 自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(施工した住宅の気密値)	クラモクホームズ	施工した住宅の平均気密値を算出(配管工事完了時に測定した数値)「気密値」についてはレポートP16参照	0.48以下	0.47以下	0.46以下	$(0.3+0.18+0.13+0.3+0.4+0.4+0.29+0.4+0.3+0.2+0.3+0.4+0.38+0.3)/14$	0.31	$(0.26+0.1+0.2+0.1+0.28+0.18+0.2+0.4+0.18+0.2+0.43+0.23+0.15)/13$	0.22	-	0.21
1 自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(施工した住宅の熱損失係数)	クラモクホームズ	施工した住宅の熱損失係数を算出(W/m ² K)	未設定	未設定	未設定	-	-	-	-	-	1.12
1 自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(施工した住宅の外皮平均熱還流率)	クラモクホームズ	施工した住宅の外皮平均熱還流率を算出(W/m ² K)	未設定	未設定	未設定	-	-	-	-	-	0.28
2 自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(広報誌の発行)	クラモクホームズ	自社の環境対策に言及した挨拶状の発行回数(施主への発送)	年1回発行	-	-	2020年12月に発行	1	2021年12月に発行	1	2022年12月に発行	1
3 CO2排出量(全社売上高あたり) 注:78期以降使用排出係数0.636kg-CO2/kWh(中国電力2018年度調整後の係数を使用)	クラモクHD	CO2の総量(kg)	-	-	-	総量222,349.7	-	総量208609.06	-	総量176594.30	-
		全グループCO2排出量(kg)/全グループ売上高(百万円) 注:部門間売上相殺無し	128以下	127以下	126以下	222349.7/1876	118.5	208609.06/2040	102.3	176594.30/2038	86.7
4 使用電力量(各社売上高あたり)	倉敷木材	倉敷木材使用電力量(kWh)(※1)/倉敷木材売上高(百万円)	128以下	127以下	126以下	177334/1139	155.7	163640/1303	125.6	146592/1217	120.5
	クラモクホームズ	クラモクホームズ使用電力量(kWh)(※2)/クラモクホームズ売上高(百万円)	44.0以下	43.5以下	43.0以下	19749/711	27.8	17469/710	24.6	16702/768	21.7

注)上記の内、建設現場に関する項目は1(住宅の気密値測定)及び8(化学物質の使用量)である

※1 本社屋事務所・旧プレカット工場・加工センターの合計値

※2 住宅部事務所の合計値

※3 本社経費・旧木材グループ・旧設備グループ・旧外装サッシグループの合計値

※4 産業廃棄物の合計値

※5 建設現場で使用するメレンビス量

※6 グリーン購入法適合商品(G商品)及びグリーン購入法適合商品以外のエコ商品(E商品)の合計値

④ 環境経営目標(当年度及び次年度以降)並びに当年度の実績(事業所及び建設現場)

《 環境経営目標(第82期～84期)並びに82期の実績値(事業所及び建設現場) (続き) 》

	項目	主部門	計算式及び単位	中期的な原単位目標値 (主にスライド方式)			80期(2020年7/26～)		81期(2021年7/26～)		82期(2022年7/26～)	
				82期	83期	84期	計算根拠	実績値	計算根拠	実績値	計算根拠	実績値
5	ガソリン及び軽油 使用量 (各社売上高 あたり)	倉敷木材	倉敷木材使用 ガソリン・軽油量 (L)(※3) × 10/木建G売上高 (百万円)	118 以下	117 以下	116 以下	16026.39*10 /1139	140.7	14194.03*10 /1303	108.9	11543.79*10 /1217	94.9
		クラモク ホームズ	クラモクホームズ 使用ガソリン・軽油量 (L) × 10/住宅部売上高 (百万円)	168 以下	167 以下	166 以下	8346.86*10 /711	117.4	9420.33*10 /710	132.7	6640.09*10/768	86.5
		倉敷木材	配送業務で使用した ガソリン・軽油量(L) × 10/全グループ売 上高(百万円) ※部門間売上相殺 無し	88 以下	87 以下	86 以下	13311.74*10 /1876	71.0	12389.39*10 /2040	60.7	9993.27*10 /2038	49.0
6	総排水量 (全グループ 売上高あたり)	クラモク HD	総排水量(m³)× 100/ 全グループ売上高(百 万円) ※部門間売上相殺無 し	29.0 以下	28.5 以下	28.0 以下	628*100/1876	33.5	538*100 /2040	26.4	465*100/2038	22.8
7	一般廃棄物 排出量 (全グループ 売上高あたり)	クラモク HD	一般廃棄物排出量 (kg)× 10/ 全グループ売上高(百 万円)	30.0 以下	29.5 以下	29.0 以下	-	-	-	-	4387.62*10 /2038	21.5
7	産業廃棄物 排出量 (ホームズ売上高 あたり)	クラモク ホームズ	産業廃棄物排出量 (t)(※4)× 100/ クラモクホームズ 売上高(百万円)	98 以下	97 以下	96 以下	(488371.7+15) /1000*100 /711	68.7	(517293+938 5) /1000*100 /710	74.2	(478323) /1000*100 /768	62.3
8	化学物質排出量 (ホームズ売上高 あたり)	クラモク ホームズ	化学物質使用量 (kg)(※5)× 1000/ クラモクホームズ 売上高(百万円)	14 以下	13.5 以下	13.0 以下	8.05*1000/711	11.3	7.1*1000 /710	10.0	9.0*1000/768	11.7
9	物品購入に 占める グリーン購入の 割合	クラモク HD	グリーン購入額 (円)(※6)/ 総物品購入額(円)	52% 以上	53% 以上	54% 以上	257238 /498287	51.6%	(13845+ 226845) /347167	64.3%	203303 /323422	62.9%

注)上記の内、建設現場に関する項目は1(住宅の気密値測定)及び8(化学物質の使用量)である

※1 本社屋事務所・旧プレカイト工場・加工センターの合計値

※2 住宅部事務所の合計値

※3 本社経費・旧木材グループ・旧設備グループ・旧外装サッシ
グループの合計値

※4 産業廃棄物の合計値

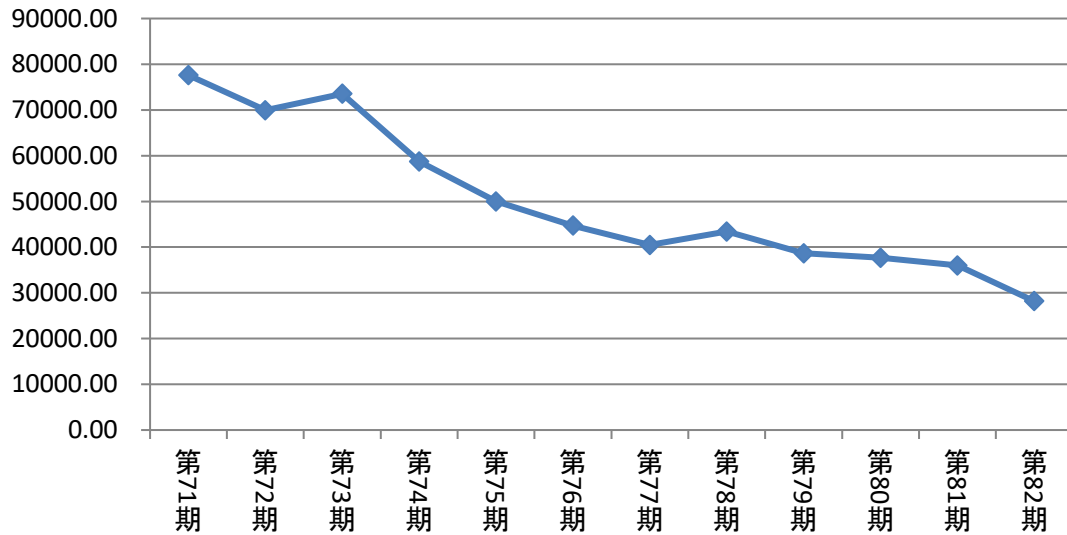
※5 建設現場で使用するメレンビス量

※6 グリーン購入法適合商品(G商品)及びグリーン購入法適合商品以外のエコ商品(E商品)の合計値

④ 環境経営目標(当年度及び次年度以降)並びに当年度の実績(事業所及び建設現場)

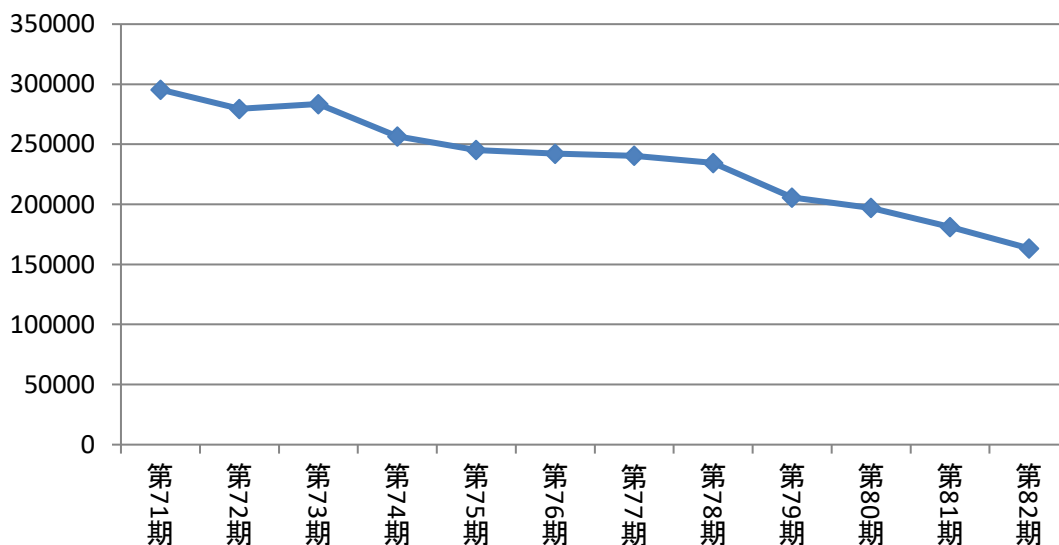
主な環境負荷の推移グラフ(過去12年間)

ガソリン・軽油使用量(L)



毎日の業務において営業部門と配送部門の間で積極的なコミュニケーションを心掛け、効率的な配送計画を策定しています。また、低燃費の車両や軽トラックへの切替も推進し、化石燃料(ガソリン・軽油)の使用量は過去12年間でほぼ半減しました。

電力使用量 (KWh)



当社では早くから働き方改革と環境活動を関連させて取り組んできました。その結果、残業が大幅に削減され、電力使用量は過去12年間一貫して減少傾向にあります。

⑤ 環境経営目標の実績評価並びに今後の方針(事業所及び建設現場)

《 第82期 環境経営目標の実績評価並びに今後の方針(事業所及び建設現場) 》

	項目	主部門	計算式及び単位	中期的な原単位 目標値 (主にスライド方式)			82期(2022年7/26～)		第82期(2022年7/26～2023年7/25)		
				82期	83期	84期	計算根拠	実績値	環境経営目標 の達成状況	達成	評価並びに今後の方針
1	自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(施工した住宅の気密値)	クラモクホームズ	施工した住宅の平均気密値を算出(配管工事完了時に測定した数値)「気密値」についてはレポートP16参照	0.48以下	0.47以下	0.46以下	-	0.21	原単位目標0.48以下に対して0.21となり、目標を達成した。	○	環境経営計画の実行により、平均気密値が継続的に減少している点が評価できる。第83期は原単位目標を更に0.01引き下げるとともに、気密値以外の数値(熱損失係数、外皮平均熱還流率)の把握も継続する。
1	自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(施工した住宅の熱損失係数)	クラモクホームズ	施工した住宅の熱損失係数を算出(W/m ² K)	未設定	未設定	未設定	-	1.12	計測の結果1.12となった。目標値は未設定である。	-	引き続き熱損失係数を把握し、目標値の設定につなげる。
1	自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(施工した住宅の外皮平均熱還流率)	クラモクホームズ	施工した住宅の外皮平均熱還流率を算出(W/m ² K)	未設定	未設定	未設定	-	0.28	計測の結果0.28となった。目標値は未設定である。	-	引き続き外皮平均熱還流率を把握し、目標値の設定につなげる。
2	自らが施工・販売・提供する製品及びサービス(広報誌の発行)	クラモクホームズ	自社の環境対策に言及した挨拶状の発行回数(施主への発送)	年1回発行	-	-	2022年12月に発行	1	計画通り挨拶状を発行し、約900部を顧客に発送した。	○	持株会社化に伴い、従来の挨拶状の発行は停止する。
3	CO2排出量(全社売上高あたり) 注:78期以降使用排出係数0.636kg-CO2/kWh(中国電力2018年度調整後の係数を使用)	クラモクHD	CO2の総量(kg) 全グループCO2排出量(kg)/ 全グループ売上高(百万円) 注:部門間売上相殺無し	-	-	-	総量 176594.30	-	原単位目標128以下に対して86.7となり、目標を達成した。	○	環境経営計画の実行により、CO2の排出総量が継続的に減少している点が評価できる。全社売上高も維持できたため、前期と比べて原単位の数値も大幅に改善した。第83期は原単位目標を更に1引き下げ、具体策としてのノー残業デーの実施と併せて効率的な運営に取り組む。
4	使用電力量(各社売上高あたり)	倉敷木材	倉敷木材使用電力量(kWh)(※1)/ 倉敷木材売上高(百万円)	128以下	127以下	126以下	146592/1217	120.5	原単位目標128以下に対して120.5となり、目標を達成した。	○	環境経営計画の実行により、電力使用量が前年比で減少した点が評価できる。倉敷木材の売上高は減少したが、前期と比べて原単位の数値も改善した。第83期は原単位目標を1引き下げ、具体策としてのノー残業デーの実施と併せて効率的な運営に取り組む。
		クラモクホームズ	クラモクホームズ使用電力量(kWh)(※2)/ クラモクホームズ売上高(百万円)	44.0以下	43.5以下	43.0以下	16702/768	21.7	原単位目標44以下に対して21.7となり、目標を達成した。	○	環境経営計画の実行により、電力使用量が前年比で減少した点が評価できる。完成工事高も維持したため、前期と比べて原単位の数値も改善した。第83期は原単位目標を0.5引き下げ、具体策としてのノー残業デーの実施と併せて効率的な運営に取り組む。

注)上記の内、建設現場に関する項目は1(住宅の気密値測定)及び8(化学物質の使用量)である

※1 本社屋事務所・旧プレカット工場・加工センターの合計値

※2 住宅部事務所の合計値

※3 旧木材グループ・旧設備グループ・旧外装サッシグループの合計値

※4 産業廃棄物の合計値

※5 建設現場で使用するメチレンビス量

※6 グリーン購入法適合商品(G商品)及びグリーン購入法適合商品以外のエコ商品(E商品)の合計値

⑤ 環境経営目標の実績評価並びに今後の方針(事業所及び建設現場)

《 第81期 環境経営目標の実績評価並びに今後の方針(事業所及び建設現場) (続き) 》

項目	主部門	計算式及び単位	中期的な原単位目標値 (主にスライド方式)			82期(2022年7/26 ～)		第82期(2022年7/26～2023年7/25)		
			82期	83期	84期	計算根拠	実績値	環境経営目標の達成状況	達成	評価並びに今後の方針
5 ガソリン及び軽油 使用量 (各社売上高あたり)	倉敷木材	倉敷木材使用 ガソリン・軽油量 (L)(※3) ×10/木建G売上 高(百万円)	118 以下	117 以下	116 以下	11543.79 *10/1217	94.9	原単位目標 118以下に 対して94.9と なり、目標を 達成した。	○	環境経営計画の実行により、ガソリン・軽油使用 量が前年比で減少した点が評価できる。倉敷木 材の売上高は減少したが、前期と比べて原単位 の数値も改善した。 第83期は原単位目標を1引き下げ、配送先の統 合による効率化と併せて効率的な運営に取り組 む。
	クラモク ホームズ	クラモクホームズ 使用ガソリン・軽 油量(L) ×10/住宅部売上 高(百万円)	168 以下	167 以下	166 以下	6640.09* 10/768	86.5	原単位目標 168以下に 対して86.5と なり、目標を 達成した。	○	環境経営計画の実行により、ガソリン・軽油使用 量が前年比で減少した点が評価できる。完成工 事高も増加し、原単位目標は達成することがで きた。高性能住宅の施工と効率的な配送に引き 続き取り組む。原単位目標を1引き下げ、取り組 みを継続する。
	倉敷木材	配送業務で使用し た ガソリン・軽油量 (L) ×10/全グループ 売上高(百万円) ※部門間売上相 殺無し	88 以下	87 以下	86 以下	9993.27* 10/2038	49.0	原単位目標 88以下に 対して40.9と なり、目標を 達成した。	○	環境経営計画の実行により、ガソリン・軽油使用 量が継続的に減少している点が評価できる。全 社売上高も維持できたため、前期と比べて原単 位の数値も改善した。 第83期は原単位目標を更に1引き下げ、配送先 の統合による効率化と併せて適切な運営に取り組 む。
6 総排水量 (全社売上 高あたり)	クラモク HD	総排水量 (m)×100/ 全グループ売上 高(百万円) ※部門間売上相 殺無し	29.0 以下	28.5 以下	28.0 以下	465*100 /2038	22.8	目標原単位 29.0以下に 対して22.8と なり、目標を 達成した。	○	環境経営計画の実行により、水使用量が前年比 で減少した点が評価できる。全社売上高も維持 できたため、前期と比べて原単位の数値も改善 した。 第83期は原単位目標を0.5引き下げ、具体策と してのノー残業デーの実施と併せて効率的な運営 に取り組む。
7 一般廃棄 物排出量 (全グルー プ売上高あ たり)	クラモク HD	一般廃棄物排出量 (kg)×10/ 全グループ売上 高(百万円)	30.0 以下	29.5 以下	29.0 以下	4387.62* 10/2038	21.5	原単位目標 30以下に 対して21.5と なり、目標を 達成した。	○	今期初めて目標数値を設定した。引き続き排出 量の数値把握に取り組む。第83期は原単位目標 を0.5引き下げ、取り組みを継続する。
7 産業廃棄 物排出量 (ホームズ 売上高あ たり)	クラモク ホームズ	産業廃棄物排出量 (t)(※4)×100/ クラモクホームズ 売上高(百万円)	98 以下	97 以下	96 以下	(478323) /1000 *100/768	62.3	原単位目標 98以下に 対して62.3と なり、目標を 達成した。	○	環境経営計画の実行により、原単位目標を達成 した。工事の案件数に左右される部分も大きい が、引き続き適切な管理と数値把握に取り組む。 第83期は原単位目標を1引き下げ、取り組みを 継続する。
8 化学物質 排出量 (ホームズ 売上高あ たり)	クラモク ホームズ	化学物質使用量 (kg)(※5)×1000/ クラモクホームズ 売上高(百万円)	14 以下	13.5 以下	13.0 以下	9.0*1000 /768	11.7	原単位目標 14以下に 対して11.7と なり、目標を 達成した。	○	新築棟数の増加に伴い化学物質使用量は増加 したが、原単位目標は達成した。工事の案件数 に左右される部分も大きい、現場管理アプリの 導入等も行い適切な施工による環境負荷の低減 に取り組む。第83期は原単位目標を0.5引き下げ 取り組みを継続する。
9 物品購入 に占める グリーン購 入の割合	クラモク HD	グリーン購入額 (円)(※6)/ 総物品購入額(円)	52% 以上	53% 以上	54% 以上	203303 /323422	62.9%	目標値52%以 上に対して、 62.9%となり、 目標を達成 した。	○	グリーン購入及び環境配慮商品の比率が継続 的に50%を超えている点が評価できる。 今期も利便性とのバランスを考慮しながら、適切 な代替商品が無い等のやむをえない場合を除き、 環境に配慮した商品の注文を優先させることを 心掛ける。

注)上記の内、建設現場に関する項目は1(住宅の気密値測定)及び8(化学物質の使用量)である

※1 本社屋事務所・旧プレカット工場・加工センターの合計値

※2 住宅部事務所の合計値

※3 旧木材グループ・旧設備グループ・旧外装サッシグループの合計値

※4 産業廃棄物の合計値

※5 建設現場で使用するメチレンビス量

※6 グリーン購入法適合商品(G商品)及びグリーン購入法適合商品以外のエコ商品(E商品)の合計値

⑥ 環境経営計画及びその取組内容(事業所及び建設現場)

《 第82期 環境経営計画及びその取組内容(事業所及び建設現場) 》

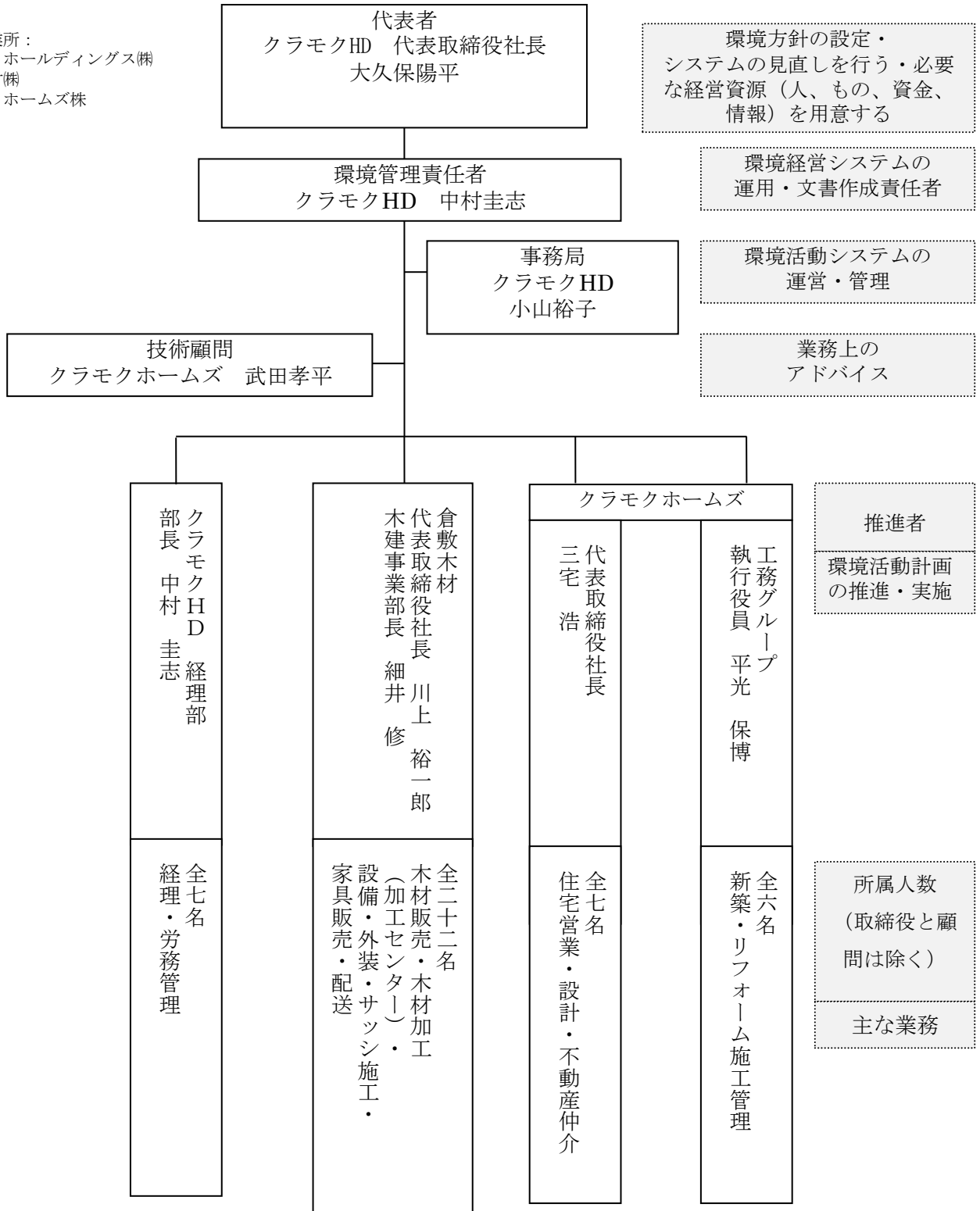
分 類	取組項目・実施内容		担当部署	担当者
自らが施工・販売・提供する 製品及びサービス	国内最高レベルの省エネルギー住宅建設に取り組むため、自社が施工した新築住宅の気密値（C値）、UA値（外皮平均熱還流率）、Q値（熱損失係数）を計測し記録する。		アーキテクトグループ	住宅営業スタッフ（柴田）
	森林の役割について言及した広報誌を発行し、WEBにて公開するとともに施主へ発送する		アーキテクトグループ	広報責任者（杉本）
省エネルギー	電力使用量削減	時短による節電	全グループ	環境管理責任者（中村）
		時短によるエアコン使用量の削減	全グループ	21推進者（中村他4名が各部門を担当）
		定時退社日の設定	総務人事G	総務人事Gリーダー（中村）
	ガソリン・軽油の使用量削減	日々、複数の配達先を統合する	木建事業G	ロジスティクスUリーダー（田頭）
水道使用量削減	時短による水道使用量の削減		全グループ	環境管理責任者（中村）
廃棄物の削減	分別・適正処理状況確認		全グループ	推進者（中村他4名が各部門を担当）
	各種廃棄物のリサイクル化による有効利用率向上、引き取り先の随時見直し（木材・ビニール類・紙類・段ボール等）		全グループ	推進者（中村他4名が各部門を担当）
化学物質使用量削減	工事で使用する接着剤に含まれる化学物質使用量の適正な把握に努める ※PRTR法の対象物質であるが、使用量は規制（届出）対象外		建築工務G	建築工務Gリーダー（平光）
グリーン購入	グリーン購入適合商品の購入推進		総務人事G	CSユニット（原）
従業員教育	環境方針の確認（営業方針発表会時及び朝礼毎）、新入社員教育		全グループ	環境管理責任者（中村）

注)上記の内、建設現場に関する項目は「住宅の気密値測定及」び「化学物質使用量削減」である

⑦ 環境経営計画の実施体制（事業所及び建設現場）

《 実施体制（事業所） 》

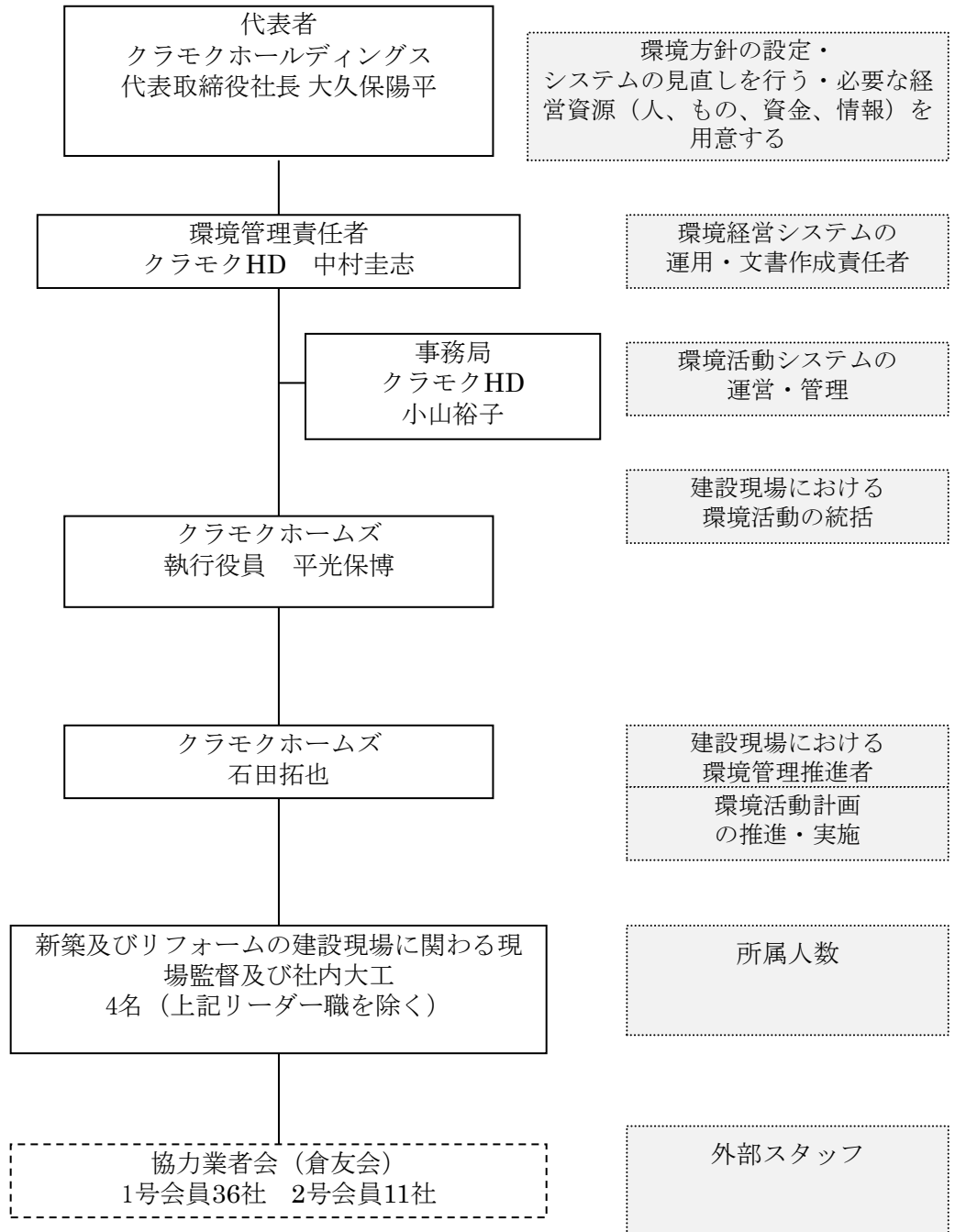
対象事業所：
 クラモクホールディングス㈱
 倉敷木材㈱
 クラモクホームズ株



⑦ 環境経営計画の実施体制（事業所及び建設現場）

《 実施体制（建設現場） 》

対象事業所：
クラモクホームズ株



⑧ 環境経営計画の取組結果及びその評価(事業所及び建設現場)並びに次年度の方針

《 第82期 環境経営計画の取組結果及びその評価(事業所及び建設現場)並びに次年度の方針 》

分 類	取組項目・実施内容	実施状況の確認 (○×△で記載)	評価結果(活動・取組の 効果)	定着の程 度	更新・改定 の可否	実行 可能性	次年度の方針
自らが施工・販売・提供する製品及びサービス	国内最高レベルの省エネルギー住宅建設に取り組むため、自社が施工した新築住宅の気密値(C値)、UA値(外皮平均熱還流率)、Q値(熱損失係数)を計測し記録する。	○	別表 KM-R03 記載※の通り 新築物件における配管工事完了時に実施した	目標達成に加え、前期と比べても更に気密性能を向上させることができ、効果が上がっている。UA値、Q値の把握もできた。	新築の全現場で、取組み、定着している。	改定の必要はない。 C値、UA値、Q値の把握は引き続き可能である。	引き続き、把握する数値をC値に加え、UA値(外皮平均熱還流率)、Q値(熱損失係数)にまで拡大し、取組みを継続する。
	森林の役割について言及した広報誌を発行し、WEBにて公開するとともに、施主へ発送する	○	別表 KM-R03 記載※の通り 実施した	計画通り広報誌を発行し、約1000部を顧客に発送することができ、会社の取組みの紹介やアピールにつながった。	毎年発行し、定着している。	組織再編に伴い、広報誌の発行は停止する。 組織再編に伴い、実行が困難となった。	第83期は広報誌の発行は行わない。
省エネルギー	電力使用量削減	○	別表 KM-R03 記載※の通り 実施した	取組の結果、使用電力量は前年比で減少した。	定時退社日の実行は定着している。	具体的な手段として、時短を導入した。 全社で定時退社日を設定することにより具体化が可能である。	節電にむけた具体的な手段を明確化するため、定時退社日の設定を継続する。
	時短によるエアコン使用量の削減	○	別表 KM-R03 記載※の通り 実施した	取組の結果、使用電力量は前年比で減少した。	定時退社日の実行は定着している。	具体的な手段として、時短を導入した。 全社で定時退社日を設定することにより具体化が可能である。	節電にむけた具体的な手段を明確化するため、定時退社日の設定を継続する。
	定時退社日の設定	○	別表 KM-R03 記載※の通り 実施した	取組の結果、使用電力量は前年比で減少した。	定時退社日の実行は定着している。 時短退社日を設定した。	具体的な手段として、時短につながる定時退社日を設定した。 全社で定時退社日を設定することにより具体化が可能である。	節電にむけた具体的な手段を明確化するため、定時退社日の設定を継続する。
	ガソリン・軽油の使用量削減	○	別表 KM-R03 記載※の通り 実施した	ガソリン・軽油使用量は減少し、全部門で原単位目標も達成するなど、効果は上がっている。	効率的な配達に対する意識は定着している。	具体的な手段として、日々複数の配達先を統合した。 配送担当者の裁量を拡大することにより可能である。	次年度も配送担当者の裁量で、日々、複数の配達先を統合する。
水道使用量削減	時短による水道使用量の削減	○	別表 KM-R03 記載※の通り 実施した	取組の結果、水道使用量は前年比で減少した。	なるべく節水を心がけると意識は定着している。	具体的な手段として、時短につながる定時退社日を設定した。 全社で定時退社日を設定することにより具体化が可能である。	節電にむけた具体的な手段を明確化するため、定時退社日の設定を継続する。

注)当項目の内、建設現場に関する項目は「住宅の気密値測定」及び「化学物質使用量削減」である

⑧ 環境経営計画の取組結果及びその評価(事業所及び建設現場)並びに次年度の方針

《 第82期 環境経営計画の取組結果及びその評価(事業所及び建設現場)並びに次年度の方針(続き) 》

分 類	取組項目・実施内容	実施状況の確認 (○×△ で記載)	評価結果 (活動・ 取組の効果)	定着の程度	更新・改定 の可否	実行 可能性	次年度の方針
廃棄物の削減	分別・適正処理状況確認	○	別表 KM-R03 記載※の通り実施した マニフェストを随時確認し、特に問題は確認されていなかった。次年度も取り組みを継続する。	マニフェストの確認、入力作業は定着している。	具体的な処理金額の把握に努める必要がある。	経理システムより、具体的な処理金額の把握は実行可能である。	処理に関わる経費の推移も把握を継続する。
	各種廃棄物のリサイクル化による有効利用率向上	○	別表 KM-R03 記載※の通り実施した 取組の結果、排出量に関しては原単位目標を達成した。	排出量の低減への意識は定着している。	よりリサイクル化を進める必要がある。	木くずの再利用を進めることは実行可能である。	発生する木くずのリサイクルを継続する。
化学物質使用量削減	工事で使用する接着剤に含まれる化学物質使用量の適正な把握に努める ※PRTR法の対象物質であるが、使用量は規制(届出)対象外(1トン未満)	○	別表 KM-R03 記載※の通り実施した 取組の結果、化学物質使用量を適正に把握した。使用量は規制(届出)対象外であった。	使用した化学物質の数量把握は定着している。	工事件数に左右されるため、現時点で取り組みを改定する必要は無いと考える。	現在の数量把握は引き続き実行可能である。	1物件あたりに使用する化学物質はほぼ固定されているため、次年度も引き続き化学物質使用量の適正な把握に努める。
グリーン購入	グリーン購入適合商品の購入	○	別表 KM-R03 記載※の通り実施した 取組の結果、グリーン購入及び環境配慮商品の比率を把握し、かつ数値目標を達成した。	代替商品が無い場合を除き環境配慮商品を購入することは定着している。	現時点で取り組みを改定する必要は無いと考える。	グリーン購入及び環境配慮商品の比率を把握することは、引き続き実行可能である。	次年度も引き続き、代替商品が無い場合を除いて環境配慮商品を購入する。
従業員教育	環境方針の確認(営業方針発表会時及び朝礼ごとに行う)及び新入社員教育	△	別表 KM-R03 記載※の通り、一部実施した 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎週の朝礼における環境方針の唱和を中止した。	元々定着していたが、コロナ禍による特別対応が続いている。	組織再編に伴い、朝礼を分散して行い、その場で環境方針を確認する。	環境方針の掲示等によっても周知は可能である。	朝礼の分散開催と環境方針の掲示により、従業員教育を行う。

注)当項目の内、建設現場に関する項目は「住宅の気密値測定及」及び「化学物質使用量削減」である

⑨ 次年度の環境経営計画(事業所及び建設現場)

《 第83期(2023年7月26日～2024年7月25日) 環境経営計画(事業所及び建設現場) 》

分 類	取組項目・実施内容		担当部門	担当者
自らが施工・販売・提供する 製品及びサービス	国内最高レベルの省エネルギー住宅建設に取り組むため、自社が施工した新築住宅の太陽光設置率の向上、気密値(C値)、外皮平均熱還流率(UA値)及び熱損失係数(Q値)の計測を行う。 ※詳細は別紙1参照		クラモクホームズ	住宅営業スタッフ(柴田)
省エネルギー	電力使用量削減 ※詳細は別紙2参照	時短による節電 ※別紙2参照	全グループ	環境管理責任者(中村)
		時短によるエアコン使用量の削減 ※別紙2参照	全グループ	推進者(中村他4名が各部門を担当)
		定時退社日の設定 ※別紙2参照	クラモクHD	経理部長(中村)
	ガソリン・軽油の使用量削減	日々、複数の配達先を統合する	倉敷木材	ロジスティクスUリーダー(田頭)
水道使用量削減	時短による水道使用量の削減 ※別紙2参照		全グループ	環境管理責任者(中村)
廃棄物の削減	分別・適正処理状況を現物及びマニフェストで随時確認する		全グループ	推進者(中村他4名が各部門を担当)
	各種廃棄物のリサイクル化による有効利用率向上、引き取り先の随時見直し(木材・ビニール類・紙類・段ボール等)		全グループ	推進者(中村他4名が各部門を担当)
化学物質使用量削減	工事で使用する接着剤に含まれる化学物質使用量の適正な把握に努める ※PRTR法の対象物質であるが、使用量は規制(届出)対象外		クラモクホームズ	建築工務Gリーダー(平光)
グリーン購入	グリーン購入適合商品の購入推進		クラモクHD	経理課(原)
従業員教育	環境方針の唱和(営業方針発表会時及び朝礼毎)、新入社員教育		全グループ	環境管理責任者(中村)

注)上記の内、建設現場に関する項目は「住宅の気密値測定及」び「化学物質使用量削減」である

⑨ 次年度の環境経営計画(事業所及び建設現場)

《 第83期(2023年7月26日～2024年7月25日) 環境経営計画(事業所及び建設現場) 》



夏涼しく、冬暖かい家、自然の力を利用して少ない
エネルギーで環境にも、人にも優しい
パッシブハウスレベルの家づくりをすすめます

取組項目

- ① 太陽光設置率向上 …… 一次エネ消費量の削減
一次エネルギーとは、住宅設備で1年間に使う自然等から生み出されるエネルギーを表した指標
- ② UA値(燃費ナビ)向上 …… 外皮性能の正確な把握と向上で冷暖房需要の削減
- ③ Q値(燃費ナビ)向上 …… 換気及び日射遮蔽も含めた性能把握と向上
- ④ 年間冷房需要(燃費ナビ)向上 …… 日射遮蔽も含めた検討で冷房需要削減
- ⑤ 年間暖房需要(燃費ナビ)向上 …… 正確な外皮性能計算から暖房需要削減
- ⑥ C値向上(実測) …… 年間通じて集計し、気密の技術向上を目指す

実施内容及び活動計画

- ★「①～⑤」予定表にPU担当者各自記載(毎週更新)→年平均値自動表示
→設計による効率化や標準仕様の見直し等、月一回PU会議で話し合い
→結果を受けAG全体で共有し設計を改善
- ★「⑥」SKU会議にて、気密試験の結果報告と意見交換→施工改善及び設計
によるC値の傾向性をAGに意見申告→AG会議にて改善協議→設計の改善

UA値、Q値、C値って、なになに？

UA値
(外皮平均熱伝達率)

住まいの中の温度を外に伝わりやすくする断熱性能を測る数値

家から逃げる熱量(換気含まない)

家全体から逃げる熱量(W/K)
外皮面積(m²)

Q値
(熱損失係数)

窓・床・外壁・天井・屋根から、どれだけの熱が室内から外に逃げていくのかを数値化したものです。

家から逃げる熱量(換気含む)

家全体から逃げる熱量(W/K)
床面積(m²)

C値
(相当隙間面積)

室内の空気が隙間から外に逃げる

家全体の隙間の合計(m³)
建築物の延床面積(m²)

気密性能を数値化した値で、「現場の施工精度」を数字で見ることができます。言い換えると工務店の施工精度がダイレクトに表される数字です。同じ部材、建て方をしてもC値は同じにはなりません。より精度の高い施工方法により建てられた建物がC値が高くなるということです。C値を簡単に説明すると、家全体でどのくらいの面積の隙間があるかという数値です。C値はとても重要で、UA値の高い建物を建築してもC値が低ければ熱が隙間からどんどん逃げ、侵入し断熱効果が半減してしまいます。



全社定時退社日を設定

省エネルギーの対策の為に会社の電気(光熱に関する部分)を抑制する為に全社にて定時退社の日を定めます

	ルール	考えられる対応
1	第1火曜日↓ 第2火曜日↓ 月に2日定時退社日	- 作業を効率化して残業を行わないようにする(仕事・時間の割振り) - 社内でのお客様との打ち合わせ等が該当日に入場合は、↓ 事前に17時には会社を出る必要があることをお伝えてして時間を調整する等の工夫をする - 事務処理の締め等で遅くなりがちな場合は、外部・内部への要請で解決できるものは要請する(請求書の必着依頼等) - フレックスや8時30時出社の場合は通常通り8時に出社するか、時間が不足する部分を有給として使うか、時間控除(欠勤控除時間割)をする
2	17時以降に会社へ入室しない	現場からの帰りが遅くなる場合、どうしても事務所に入る場合は速やかに片付けを行い退社するか直帰して頂きます
3	17時10分には各部門の↓ GLが社内に人が残っていないか確認↓ GLが施錠をして退社する	基本は17時になれば退社ですが、GLが施錠するまでの10分間は猶予時間となります、速やかに退出してください。

⑩ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

《 主要な環境関連法規に関する遵守状況の確認 》

法令名	チェック対象	チェック内容／法令の基準等	遵守評価 ○(問題確認 されず) ▲(改善中) ×(未達成)
廃棄物処理法	マニフェスト	適切な交付と回収の確認	○
		交付状況を自治体への報告 (年に一度県と市に報告)	○
	廃棄物処理に関する委託契約書	委託先の収集・運搬業者の許可証及び 契約書の有効期限を確認	○
	水銀含有の廃蛍光灯等	保管用の箱を設置し、他の廃棄物と分 けて管理し適法に処理	○
	産業廃棄物の保管場所	産業廃棄物毎に看板を設置し、保管量 や管理責任者を明示	○
フロン排出抑制法	業務用空調機 (当社は全て定格出力7.5kw未満)	簡易点検を実施(3か月ごと)	○
建設リサイクル法	新築工事・解体工事	新築床面積500㎡以上あるいは 解体床面積80㎡以上 に該当する場合、管轄する自治体に届 出ならびに届出書類の保管	○
騒音・振動規制法	建設機械	バックホウを使用する場合、定格出力 80kw以下であることを確認し、環境負 荷が大きいものは当社では使用しない	○
	定格出力7.5kw以上の圧縮機	昼間騒音規制65デシベル以下 昼間振動規制65デシベル以下	○
消防法	消防訓練	年に2回訓練を実施し、消防訓練実施 計画書」及び「結果報告書」を倉敷消防 署に提出する	○

《 評価の結果 》

上記の通り、環境関連法規の遵守を確認した。

一方、建設現場では騒音の苦情が一件発生したため、17時以降、祝日における作業のあり方について改善策を策定、実施した。

《 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 》

過去3年間、当社の事業活動において環境関連法規に関する違反はありません。
過去3年間、当社の事業活動に関連する訴訟はありません。(2023年9月8日現在)

⑪ 代表者による全体評価と見直しの結果

☒ 定期見直し（事業年度終了時）

1. 日 時

2022年8月18日

2. 内 容

クラモクホールディングス株式会社代表取締役社長大久保陽平が、第82期におけるグループ全体の環境活動について評価、見直し及び指示を行った。

3. 評価結果

第82期においては、概ね期首の環境経営計画に沿った活動を予定通り行うことができた。その結果、電力使用量、ガソリン・軽油使用量、総排水量、産業廃棄物排出量等、あらかじめ環境経営目標に設定した項目において、数値目標を達成することができた点が評価できる。

また、第81期から引き続いて環境活動の途中経過を「環境新聞」として掲示する等、社員による活動参画意欲が高まっている点が評価できる。

更に、従来焼却炉で焼やしていた木くずのリサイクル化が実現したことも評価できる。

一方、2022年11月に行われた社内審査において、一般廃棄物の削減目標が不足している点の指摘を受けた。この点に関して、年度替わりに実施した環境経営目標の策定時に以下の通り指示をした。

4. 見直し結果及び指示

環境経営方針については、当社の強みである木材の取り扱いや省エネルギー住宅に関する項目が含まれており、現時点で変更の必要は無いと判断している。

実施体制については、第82期中に分社化されたため、それぞれの事業会社が取り組むべき項目を定める必要がある。

環境経営目標については、新たに設定した一般廃棄物に関する数値目標の達成に向け、適切な数値把握と排出量管理に努める必要がある。

2023年7月26日より、当社は新たなグループ経営体制に移行した。同族経営の弊害を認識し、経営民主化の第一歩を踏み出すことを志向するものである。新体制においては一時的に事務的な混乱も生じうるが、環境活動が滞りなく行われるように注意する必要がある。

⑫ 当社の事業及び企業行動とSDGs

《 当社の事業及び企業行動とSDGsとの関連 》



当社は、自社の事業や企業行動が国連の持続可能な開発目標（SDGs）と以下のように関連していると考え、具体的に取り組んでいます。



①/②/③

上記のうち、この枠で囲んだ項目は当社が社会的責任を果たす上で特に重要な3分野であると認識し、SDGsの中でも重点的に取り組みます。

- ①第1の分野: 多様で公正な社会を実現するために、当社が定めた行動規範に関するもの
- ②第2の分野: 当社の事業活動そのものにより、持続可能な地域社会作りに対する責任を果たすことにつながるもの
- ③第3の分野: 当社の事業活動の結果生じる環境負荷の具体的な低減策に関するもの

⑫ 当社の事業及び企業行動とSDGs

《 SDGsにおける重点3分野の取り組み 》

分野	SDGs	取組内容	環境活動との関連	短・中期数値目標
① 行動規範	3 すべての人に健康と福祉を  5 ジェンダー平等を実現しよう 	事業活動を行う以前の基本認識として、自らが地球市民の一員であることの自覚を持つ。 その上で、日々の様々な意思決定において当社の行動規範である“Diversity, Fairness, Responsibility”（多様・公正・責任）に則った行動を取る。 会社全体としては、ステークホルダーの中心である社員の健康と安全を守るとともに、ジェンダーをはじめとした様々な観点からみてフェアな労働環境の構築を目指す。	「環境経営計画」において長時間労働の削減等を定める。 （当社環境経営レポート参照） その他の項目は随時実行する。	・有休取得率 90%以上 ・男性育休取得 90%以上 等
② 事業活動	11 住み続けられるまちづくりを 	当社の事業活動そのものにより地域の環境負荷低減につなげる。 具体的には、環境負荷の少ない建築を推進するため、当社が施工した新築住宅の気密値(C値)を気密測定器にて測定し把握する。 また、継続的に技術力の向上を図るため、新築住宅の平均気密値の目標値を設定する。	「環境経営計画」において新築住宅の気密値測定を定める。 （当社環境経営レポート参照）	新築住宅の平均気密値 0.48cm³/m³以下 （実績値は環境経営レポート参照）
③ 環境負荷低減	13 気候変動に具体的な対策を 	実際のCO2排出量を測定するため、電気、ガス、ガソリン等の使用量を月次単位で把握する。 更に、CO2排出量を低減させるため、環境負荷ごとの具体的な原単位目標を設定する。 原単位目標の計算方法： 全社売上高(百万円)あたりの全社のCO2排出量(kg)	「環境経営計画」において環境負荷の低減策を定める。 （当社環境経営レポート参照）	売上高百万円あたりのCO2排出量128kg以下 （実績値は環境経営レポート参照）

⑫ 当社の事業及び企業行動とSDGs

《 第80期におけるSDGsに関する取組の紹介 》

SDGsに関する重点的な取り組みの内、環境活動と連動して数値目標を持つ項目

分野	SDGs	取組内容	第82期目標	第83期実績	第84期目標
② 事業活動	 11 住み続けられるまちづくりを	環境負荷の少ない建築を推進するため、当社が施工した新築住宅の気密値(C値)を測定する。 また、継続的に技術力の向上を図るため、新築住宅の平均気密値の目標値を設定する。 (詳細は当レポート参照)	平均気密値 0.48 cm ³ /m ² 以下	平均気密値 0.47 cm ³ /m ² 以下	平均気密値 0.46 cm ³ /m ² 以下
③ 環境負荷低減	 13 気候変動に具体的な対策を	CO2排出量を測定するため、電気、ガス、ガソリン等の使用量を月次単位で把握する。 更に、CO2排出量を低減させるため、環境経営計画を策定して具体的に取組むとともに、環境負荷の原単位目標を設定する。 原単位目標の計算方法: 全社売上高(百万円)あたりの 全社のCO2排出量(kg) (詳細は当レポート参照)	CO2排出量の原単位 128kg以下	CO2排出量の原単位 127kg以下	CO2排出量の原単位 126kg以下

具体的な数値目標の定めは無いが、当期SDGsに関して随時取り組んだ項目

分野	SDGs	項目	取組内容
① 行動規範	 5 ジェンダー平等を実現しよう	社外に向けたジェンダー平等に関する取組の紹介	弊社代表大久保陽平が以下の取組を行った。 ・2023年5月17日岡山大学経済学部「経済経営特殊講義」にて 当社の取組を講義(対象:学部生)

⑬ 連絡先 / ⑭ 参考資料

《 当環境経営レポートに関する連絡先 》

環境管理責任者: クラモクホールディングス株式会社 経理部長 中村 圭志
環境活動事務局: クラモクホールディングス株式会社 経理課 小山 裕子

〒710-0803 岡山県倉敷市中島1000-1
電話番号: 086-465-3322 (代表) FAX番号: 086-465-3346
E-mailアドレス: soumu@kuramoku.com

《 参考資料 》 社屋の断熱改修



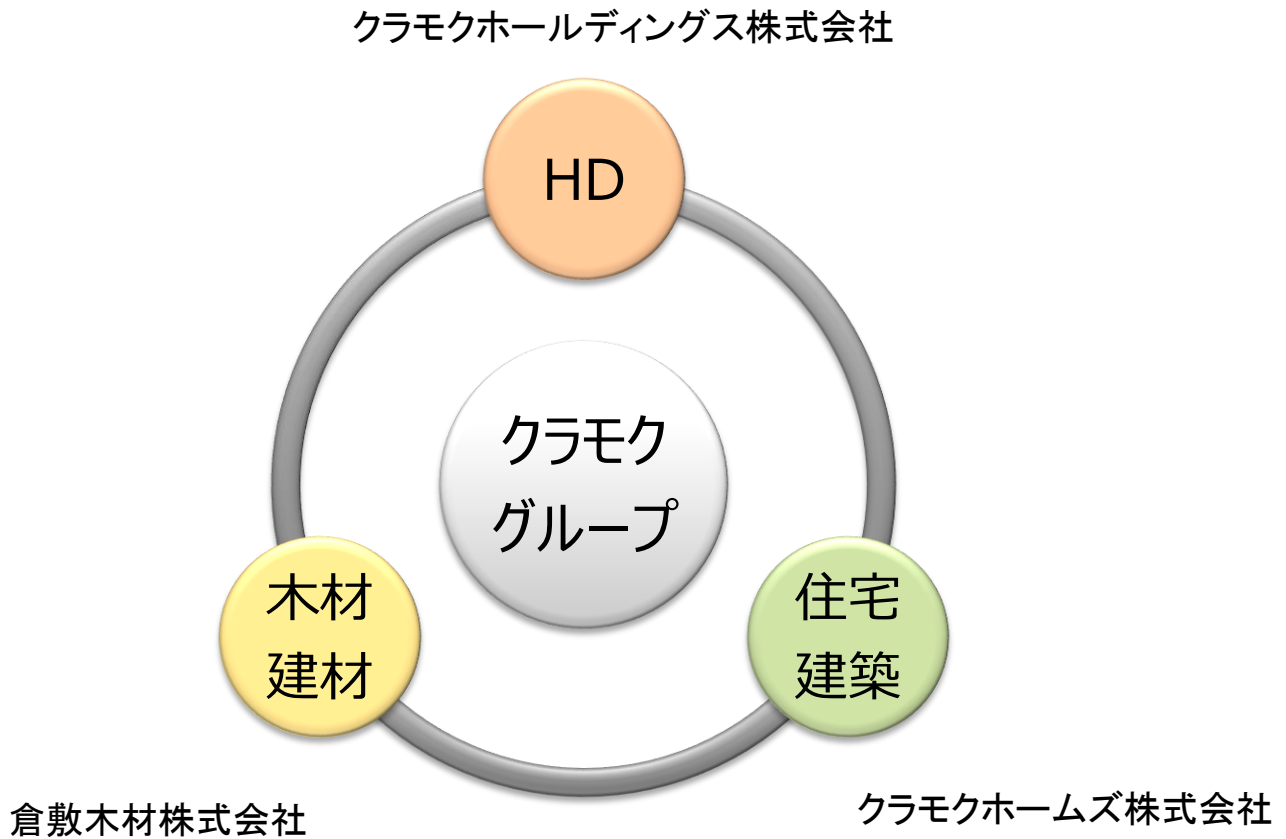
クラモクホームズ株式会社では、省エネ性能向上のため、2023年8月より社屋の断熱改修に取り組んでいます。



発泡スチロールを用いた「EPS工法」を採用しています。

⑭ 参考資料

《 参考資料 》 当社は2023年7月26日よりグループ経営体制へ移行しました



組織再編の理念

脱炭素社会における専門性の追求

「意欲と能力の向上」・「働き甲斐、主体性」・「働き方」の共存

熟慮された民主的経営体制の構築により、経営の持続可能性を高める